

「かわせみ会」便り

俳句を楽しむ会

令和5年 新年号



オミクロン株は第8波といえる状態となってきています。世間は感染への恐れに慣れて来たのか通常の生活を続けています。私たち「かわせみ会」も今まで休会・休会を続けてきましたが、5回目のワクチン接種も行き、感染予防対応に注意しながら4月以降継続して開催してきました。今のところ会メンバの感染者発生は一人も無く、脳を活性化しながら元気に創作活動を楽しんでいます。

令和4年7・8月度の詠句

- ・ かき氷こめかみ押さえてさじ運ぶ
- ・ 餓鬼何処風に漂う蜘蛛の糸
- ・ ささ飾り短冊文字は孫の手で
- ・ 焼きナスの皮剥く指に纏いけり
- ・ 砂浜に白波来たり舟進む
- ・ 夕闇もまだ蝉鳴かす常夜灯
- ・ 汗よりも涙なみだの甲子園
- ・ 球児らの勝者敗者の玉の汗

令和4年9・10月度の詠句

- ・ 神無月正宮守る大杉や
- ・ 海は不漁空は大量いわし雲
- ・ 神域に入り一步の秋思かな
- ・ 錦帯切れてはや足下山道
- ・ 銃弾は未来を閉ざした憂の秋
- ・ 刈残り黄金の稲穂垂れて待つ
- ・ 嵐去り竹林なびくか戻り風
- ・ 蜻蛉飛ぶさざなむ草に一休み
- ・ 山粧う葉隠れの術伊賀路行く
- ・ 細き路地街吹く風に匂う菊

秀句として いち押しの詠句

7月～10月の詠句の中から3人以上のメンバから選句された句



- ・ 日暮しや古つなく奥の院
- ・ 日照り盆魂も光りて肌を刺す
- ・ 露天湯に聞く川音や夜の秋
- ・ 早や五年投句見返す夜半の秋
- ・ 一人居の断捨離兼ねる冬支度
- ・ 秋晴れや気もとのひて妻とお茶



OB会員の皆さん!
俳句を詠んで投句
してみませんか!

連絡先は「ゆうゆう会報」
R4年9月号に掲載
担当幹事：鳥越・園田・金子・由比浜